

倉庫業における激突され災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	18～ 19	倉庫内作業中、被災者が、フォークリフト作業中の倉庫内作業員のそばに近づいた際、フォークリフトと接触し負傷した。	30	1～ 9
1	17～ 18	構内で梱包積み商品を積載したBOXを貨物エレベーターに移動させる途中に曲がり角を曲がる際に、方向転換するため向きを変えようとしてBOXを移動し、勢い余って膨らんで曲がってしまい、被災労働者の顔面にBOXが当たる。	37	10 ～ 29
1	0～1	原材料の搬入投入荷役作業中、作業環境を維持するための集塵機に異常を感知し、調整のため集塵機操作盤において手動で入切を行い自動運転に切り替えたところ、タンク下部の排出口付近で異音が生じたため、異物が下部に落ちたと思い、点検口を開け内部を確認した。すると異物が見えていたので右手で除去したところ、上部から更に異物の塊が落ちてきて、腕が30cm程押し下げられた。その際、タンク下部に設置されている回転物に右手示指と中指の先端が触れ、挫創した。	51	10 ～ 29
2	5～6	事務所内倉庫において作業中に後方より乗務員が商品台車搬入の際に被災者背面部分に衝突した。	34	1～ 9
4	13～ 14	バッテリー式のパレットフォーク充電場所にて、作業終了後に本機を充電するため、パレットフォークから本人が降車した状態でバックにて本機を移動したとき、ハンドル操作を誤り、右足に本機が接触した。	37	100 ～ 299
4	15～ 16	1階荷捌き場にて、フォークリフトでバック走行しながら、空のサポート付パレットを置こうとした際、被災者の後ろ側を通り、右斜め後方でいったん停止し、右に旋回しながら前進しようとした際、旋回をするだけの十分な距離を取らず接触しそうになったので慌ててブレーキを踏もうとしたら、誤ってアクセルを踏み、パレッ	42	1～ 9

		トが被災者の両ふくらはぎに当たった。		
5	14～ 15	立ててある氷を寝かせるために氷挟みを使用して倒そうとしたところ、持ち手が上限に引っ掛かったので外そうと手を離したとき、左足の甲上部に氷（高さ1m強、重量135kg）が落ちてきた。安全靴を着用していたが、鉄板で覆われていない足の甲の部分を負傷した。	52	10 ～ 29
6	10～ 11	3階エレベーター付近で、フォークリフトに乗車し、冷凍倉庫から荷物の出庫作業をしている際、冷凍倉庫出口からエレベーターまで（3m程）フォークリフトでバックで移動中、フォークリフトが止まらなくなり（アクセルの操作ミスか、タイヤに箱がつき滑った）、エレベーターの壁が近づいていたため、フォークリフトから降りようとしたが間に合わず、フォークリフトの後部と、エレベーターの壁に体を縦に（右腰リフト側、左腰エレベーター側）挟まれ、右大腿筋挫傷と恥骨骨折をした。	49	1～ 9
6	0～1	構内作業場にて、ゴミ置場から戻る途中のスロープで、別のスタッフが押していた台車が後ろからぶつかり、左足のかかと付近を負傷した。	47	30 ～ 49
7	14～15	商品在庫の保管場所では出庫作業をしていた。7段積みの最上段からダンボールを下ろそうとした時に誤って頭の上に落とした。	44	300 ～ 499
7	11～12	上記の物流センター内で、フォークリフト荷捌きを行っている時、他の作業者のフォークリフトが通るため、フォークリフトを停車し、他のフォークリフトが通過するのを待っていた所他のフォークリフトの後部が自身のフォークリフトの後部に接触しその際の衝撃により負傷。	60	10 ～ 29
9	19～ 20	作業を行う仕分場に行く為にトラックの発着場を通ろうとした際、飛び出して来たトラックの左前方部が、当該人の右肩に接触し負傷した。	53	300 ～ 499
10	15～ 16	入庫製品が到着、クレーン作業補助として作業を開始。5号倉庫北側奥まで移動し、西側へ4m程移動。クレーン作業者と反対の西側に立ち、幅2m位の場所に製品を降ろそうとしたところ、製品が西に揺れ西側に保管している製品に当たると思	54	10 ～

		い手で止めた。反動が大きく製品と製品に手が挟まり負傷した。		29
12	14~15	物流センター内のラベル貼付場にあるローラーコンベアの横で、商品入りバケットを送り出す作業中、不揃いとなったバケットを手直した際に、後から送られてきたバケットとの間に右腕が挟まったり、そのまま引っ張られ捻挫した。	20	100 ～ 299

出典： https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html